

「問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のため、コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身につけるためのプログラム及び、発達上の課題を抱えるなど特別な配慮を要する児童生徒支援のためのプログラムの実施」

入間市教育委員会

1 入間市の概要（特色）

入間市は、埼玉県の南西部に位置し、人口は約15万人である。狭山茶の主産地として知られ、市内には茶畑が多く見られる緑の文化都市である。学校数は、小学校16校、中学校11校の計27校であり、児童数約8000人、生徒数約4000人である。

本市では、平成19年度から平成23年度まで「問題を抱える子ども等の自立支援事業」等の委託を受け、総合的な不登校対策に取り組んできた。その成果として、不登校児童生徒数は徐々に減り、現在低い数値を維持している。また、不登校児童生徒の割合も県平均を大幅に下回っている状況である。

2 研究の構想

（1）研究のねらい及び研究テーマを設定した背景

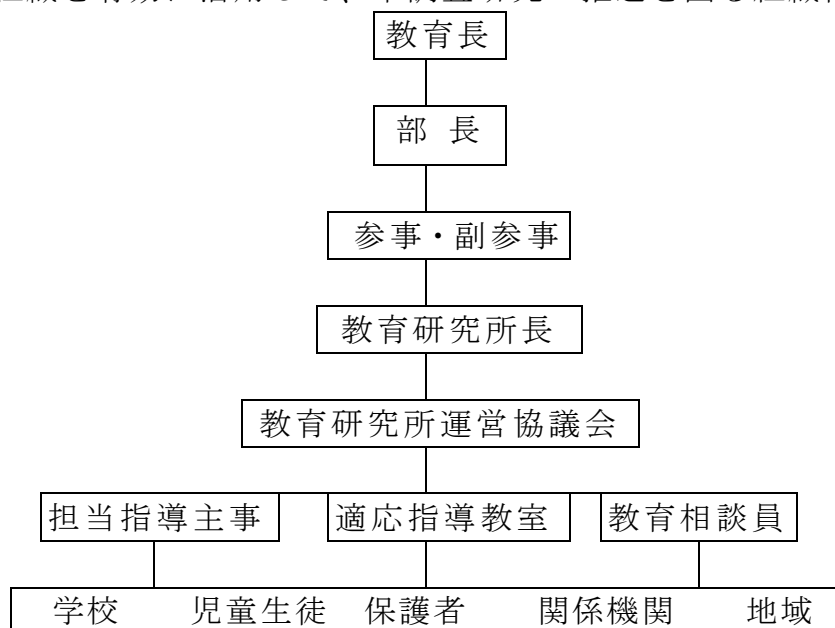
入間市では、平成19年度～23年度の5年間「問題を抱える子ども等の自立支援事業」等の委託を受け、継続的に総合的な不登校対策を行ってきた。その成果として、不登校児童生徒の人数は、年々減少傾向にあり、平成23年度における不登校児童生徒の割合は、小学校0.06%、中学校1.59%と県平均（小学校0.25%、中学校2.44%）より低い数値であった。

これまでの継続的な取組により、不登校児童生徒の人数は確実に減少してきた。しかし、現状からさらに不登校児童生徒を減らすためには、現在行っている総合的な不登校対策を継続していくとともに、引きこもりの状態にある児童生徒や適応指導教室入室者、市の教育相談を利用している児童生徒等への目配りがこれまで以上に必要であると考えた。

そこで、『不登校の予兆を早期に捉え、不登校児童生徒に対する効果的な支援の在り方』を研究テーマとして設定して取り組んだ。

(2) 調査研究の推進組織体制

適応指導教室における調査研究が中心となることから、教育研究所の組織を有効に活用して、本調査研究の推進を図る組織体制を取った。



(3) 研究内容

- ① 適応指導教室の児童生徒の社会性の育成に関する調査研究
 - ・ 適応指導教室に通う児童生徒への効果的なソーシャルスキルトレーニングの在り方について研究し、対人関係能力の育成を図った。
 - ・ 遠足や社会見学を通して、社会の中での自分の存在を自覚させるとともに対人関係のスキルを実践し、自己肯定感を高めた。
 - ・ 保育所体験等により自己有用感や自尊感情を高めることができた。
- ② 体験的なプログラム等における学生ボランティアの有効な活用法に関する調査研究
 - ・ 適応指導教室で行っている書道、工作、保育所、農作業、遠足、社会見学等の体験活動においては、同じ適応指導教室に通う限られた人間関係の中でのコミュニケーションや関係づくりを育成した。また、適応指導教室の児童生徒と他の児童生徒とが一緒に行うサマーチャレンジキャンプや学習ボランティアによる学習支援等の体験活動においては、人間関係に少し拡がりをつけた形でのトレーニングの場とした。

(4) 検証の視点、方法

- ① 不登校児童生徒の割合の変化
- ② 月7日以上欠席者から不登校の児童生徒数の把握と比較・分析
- ③ 適応指導教室から学校への復帰の状況の分析
- ④ 体験プログラムを経験した児童生徒及びボランティア学生へのアンケートや聞き取りによるフィードバック

3 研究の具体的な取り組み

(1) ソーシャルスキルトレーニング

毎月1回のペースで適応指導教室指導員によるトレーニングを行い、年間のまとめとして1月と2月に専門家のトレーニングを受けた。

(2) 宿泊体験学習（サマーチャレンジキャンプ）

適応指導教室の生徒と、学校において欠席がちや不適応気味の児童生徒が参加した。（8月23日・24日実施）17名（小学生5名・中学生12名）参加、支援大学生は8名・寝食を共にし、茶席体験や食事作り、清掃等の協働を通して、集団生活を体験した。

- ・ボランティア学生自身も子どもたちとの共通体験により、協働の中から子どもたちの無限の可能性を感じたり、支援・指導の楽しさや難しさを実感したりして、成長の場とすることができた。
- ・ボランティア学生の成長の様子を目の当たりにした生徒（特に中学3年生）は、そこから学ぶ（感じる）ところがあるようで、相乗効果的な成長が期待できた。

(3) 学校復帰に向けた学習支援

適応指導教室の児童生徒と、各小中学校の児童生徒とをあわせて延べ573名が参加した。

夏季休業中10日間（7月21日～27日・8月20日～28日）

前期326名・後期247名（延べ573名）の児童生徒が参加
支援学生（高校生・大学生）30名参加

- ・学習支援により学習面の不安の軽減に役立つとともに、支援員とのやりとりにより、コミュニケーションをとる練習の場ともなった。

(4) 保育所体験・農業体験等

豊岡保育所での保育のボランティア活動を年間5回行った。また、近くの畑でのジャガイモ等の栽培・収穫の作業を不定期ではあるが、隔週のペースで行った。収穫したジャガイモを使ってのカレーライスづくりにもつなげることができた。

- ・保育所体験では、保育児童の面倒を見る中でお兄さんお姉さんとしての自覚を促すことができた。また、保育児童への接し方について、生徒同士で助言し合う姿が見られた。
- ・農業体験では、最初は嫌がっていた児童生徒も熱心に参加した。自然の中で作業をする中で気持ちが解放されたように、仲間や指導員との会話があった。

4 研究の成果及び今後の課題

(1) 成果

- ・継続的な取組が、不登校児童生徒の減少につながっている。
(下表、下グラフ参照)
- ・日常の活動に学生ボランティアを導入したことが、質問がしやすくなり学習効果があがったことと、会話をする機会が増えコミュニケーションのスキルが向上したことに繋がった。
- ・月1回ペースの適応指導教室指導員によるソーシャルスキルトレーニングが軌道に乗ってきた。まとめとして1、2月に行った専門的なソ

ーシャルスキルトレーニングにもうまがつながった。

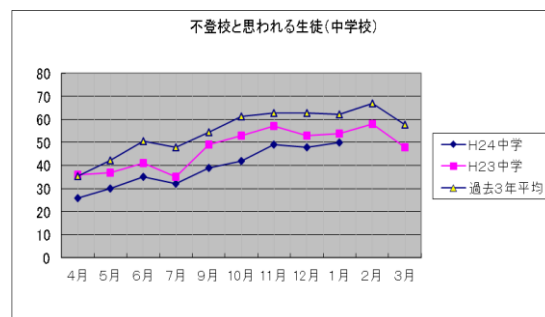
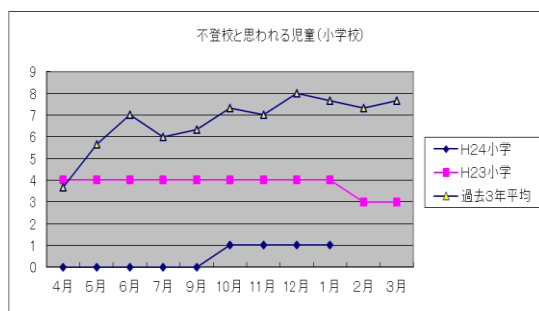
- ・サマーチャレンジキャンプでは、意図的な小学生と中学生との混合班で活動させることにより、中学生のリーダー的な面の育成と小学生の将来モデルづくりの一助となった。（さらに、学生ボランティアを導入することで、より有効な将来モデルが示せた。）
- ・様々な体験活動を通して、自分の再発見や社会との関わりを学ぶ機会が得られた。
- ・夏季休業中に行った学校復帰に向けた学習支援では、学習面の不安解消とともに、高校生と大学生ボランティアとの交流によりコミュニケーションをとる練習の場ともなった。参加児童生徒は、昨年度の2倍以上のべ573名、学生ボランティアについても、昨年度の約2倍の30名の協力が得られた。

<不登校児童生徒の割合の変化（平成24年度は12月末現在）>

小学校	入間市	埼玉県
H20年度	0.14	0.29
H21年度	0.14	0.26
H22年度	0.11	0.26
H23年度	0.06	0.25
H24年度	0.01	0.20

中学校	入間市	埼玉県
H20年度	1.98	3.10
H21年度	1.97	2.92
H22年度	1.62	2.69
H23年度	1.47	2.44
H24年度	1.19	2.03

<月ごとの不登校傾向の児童生徒数の変化（平成25年1月現在）>



(2) 課題

- ・引き続き、学生ボランティアの有効性について研究するとともに、不登校児童生徒の学校復帰に係る支援の体制づくりと復帰後の見届けに関する研究をすること
 - 引きこもりがちな児童生徒への効果的なアプローチ法を研究するとともに、学校復帰を支える大人（保護者、教師、地域の人等）の不登校への理解を深めるための研修等を実施し、不登校児童生徒が復帰しやすい環境をつくる。